

森林政策

愛知県の木材利用

日時：平成26年9月6日（土） 13:00～15:00

講師：三宅 史朗（愛知県農林水産部農林基盤担当局 林務課 課長補佐）

概況



第2限「愛知県産木材の利用促進」

講師 愛知県農林水産部農林基盤局 林務課 課長補佐 三宅 史朗

1、あいちの森林・林業

森林面積は219,136haであり、森林率は42.4%である。木材価格が昭和55年でピークを迎えた後、減少しつづけ、林業を継続することが難しくなり手入れの遅れた人工林が増加した。路網整備や林業作業の機械化等の低コスト木材生産を行い、木材生産量は平成17年から増加傾向にある。

2、木材利用に関する大きな流れ

民有林における人工林・天然林面積は昭和30年から昭和55年まで再造林・拡大造林により人工林面積割合が増加したが、現在では増減はほぼない。一方、人工林・天然林等蓄積は現在に至るまで増加している。また、人工林を林齢別面積で見ると51～55歳が一番多く、これは昭和31年～35年に直栽されたものである。これらのことから木材の資源が充実していることがわかるが、木材の価格は減少傾向にあるため、平成22年に公共建築物等木材利用促進法や平成23年に官庁営繕基準における「木造計画・設計基準」を制定し、木材利用を推進している。

3、木材利用

公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律に基づき、愛知県は「あいち

木づかいプラン」を作成した。また、同法の基づき愛知県の市町村は 98%が木材利用の基本計画を策定している。

あいち木づかいプランによって建造された公共建築物の例として下記のものがある。

- ・設楽町庁舎

木造平屋。木材使用量は 735m³。

- ・新城市立黄柳川小学校

木造平屋。木材使用量は 803m³。平成 26 年度木材利用優良施設コンクールにおいて農林水産大臣賞受賞。

このほか、愛知県はあいち認証材制度などにより木材利用促進を図っている。

4、これからの木材利用

木材の長所・短所を理解し、新たな技術・製品開発を行い「木材利用」をスタンダードにしていく。

新たな製品・技術として耐震性に優れた CLT(直行集成板)や耐火性素材の燃エンウッドなどがある。

5、木質バイオマス

平成 24 年 7 月に再生可能エネルギーにより発電された電気を買取る制度が制された。これにより

木質バイオマスによる発電事業が次々と計画され、現在 60 件以上にものぼる。しかし、燃料用木材の

安定した供給ができるかどうかなどの課題も多い。